



やらまいか

クラブテーマ：原点回帰

会長／金田 征宏 幹事／大島 嗣雄 会報委員会／中村 嘉輝・中西 弘徳 例会／毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局／豊川市豊川町辺通 44 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 FAX0533-86-8889 HP／<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第20回 通算1457回 平成28年11月29日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	11/15 修正出席率
		62名	33名	58.9%	92.9%

ゲスト：(なし) ビジター：(なし)

★会長あいさつ

金田 征宏 会長



こんにちは。朝夕めっきり寒くなりました。インフルエンザが流行っているそうです。例年ですと12月に入ってからだそ

うですが、今年は11月に流行っているそうですので、皆さんも気をつけて頂きたいと思います。外から帰られた時には、手洗い、うがいをしっかりと頂くと予防ができるそうです。

鶏の方も、青森と新潟で病原性の鳥インフルエンザが出たそうです。新潟がニワトリの殺処分、青森がアヒルの殺処分だそうです。新潟には自衛隊が処理の支援をしているそうです。

12月3日に中京大学で、「青い目の人形と答礼人形の歴史シンポジウム」が行われます。答礼人形を里帰りさせる会の会長は、小野 pasto 会長です。当クラブとしても、このシンポジウムの支援をしておりますので、お出かけ頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

本日の例会は、チャーターメンバーの近藤 哲司 会員の卓話です。よろしくお願ひします。

★幹事報告

大島 嗣雄 幹事

例会臨時変更のお知らせ
年次総会について
IMのホストについて

★委員会報告

社会奉仕委員会 (細井 勉 委員長)
12月3日社会奉仕委員会事業について

★卓話「知って得する葬祭マナー」

近藤 哲司 会員



こんにちは。本日の卓話をさせていただきます。

まず、マナーで得をするのか、知らないで恥をか

よりは良いと思いますが、得をすることはありません。

最近の葬儀の事情から説明をさせていただきます。普通の葬儀より、最近多くなったのが家族葬です。非常に多くなりました。その下に直葬という葬儀があります。お寺さんを1人呼んで、火葬だけする葬儀です。もう一つ下に、お寺さんも呼ばずに、ただ火葬をするという方も増えております。私のところで、家族葬、直葬、火葬のみというのが全体の15%ぐらいあります。

皆さんによく聞かれるのが、香典をもらっているけれども、どうしたら良いのか?と聞かれます。これには、「頂いたものは、お返しをして下さい。」と言います。お葬儀の時にお渡しできなければ、家に行って「ご仏前」を置いて来なさいと申し上げます。お互いさまと言う習慣がありますので、頂いたものは、

お返しをします。

最近家族葬が増えて来ました。当社では、徹底した説明責任をした中で、決めてもらいます。まず喪主がどこに住んでいるのか、親と離れて別のところに住んでいるのか、家族葬にしないと、その後町内の人にお返しが出来ないから家族葬にしますということです。そこに住んでいる場合に家族葬にするとどうなるのか？ 自分の所では香典を頂かなかった、隣の人が普通の葬式をしたけど香典を持って行くのか？という話になり、色んな弊害が出て来ます。ですから、そこに住んでいる方は、普通の葬儀をされた方が良く進めています。町内の持ちつ持たれつがありますので、私どもは説明をしています。

実際にあった話で、お父さんが一人で住んでいました。息子3人が町内に1軒ずつ家を建てて住んでいました。お父さんの口癖で「俺が死んだら、葬式はいらぬ。骨を海に撒いてくれればいよ」と言われておりました。息子たちは、親の遺言だと言って、その通りにしました。翌日に集金に伺ったら、喪主が頭を抱えて、「大変な事をしてしまった」と言ったので、何があったのか聞きました。親戚から息子3人もいて、親の葬式も出さないのか、戒名もない、四十九日も一周忌も無いのか、これからの親戚づきあいは断ると言われたそうです。どうしたら良いのかと言われましたので、お骨になってから葬式をされる方もいるので、これからお葬式をしましょうとアドバイスをして、親戚を呼び、町内も呼び、もう一度葬式をやり直した方がいました。

親の口癖は、遺言ではありません。私のお袋は92歳です。何回も私に葬式はしなくても良いと言います。ですので、私は、親の葬式も出せない息子にしたいのか、そうではなく派手ではないが親の葬式ぐらい出せる息子が欲しいのではないかと仰いました。それ以降は一切何も言わなくなりました。お葬式というものは、子どもが決める事です。親が決める事ではありません。親は、子どもに費用の心配を掛けたくないのと言うのだと思いますが、親の葬式は子どもが決める事です。

当社では原則、生前契約は行っておりません。親が先にお金を払うからお願いしませうと言われても契約はしません。身寄りがなく自分一人だけという方、葬式を出してくれる人がいない方は、生前契約をしております。

最近の葬祭は非常に難しくなってきました。

中には、お金がないので火葬だけしてくれと言われるケースです。あとのお骨をどうするのか、無縁仏でも、永代供養でも、納める時にはお金がかかります。本当にお金がない人は、お骨を拾わないで下さい。拾うからお墓が必要になります。火葬だけして、お骨を拾わず、写真を家に飾るケースもあります。本当の宗教からすると邪道かもしれませんが、でも実際にお金の無い人たちもいます。私たちは、葬式をお願いしますと言われた時に、後どうしますか？ということを確認します。葬式の後は知りませんという無責任な事は出来ません。色んな葬式が増えて来ました。

そんなことを考えながら、人の一生をどう作り上げていくのか、自分たちが親に対して感謝をするのか、自分に子どもがいなく最後どうするのか、そういうことを踏まえて、その人にとって何が一番良いのか考えながら、葬儀を作り上げています。

神式の場合は、その神式の作法に則ってお参りをします。仏教の場合には、門徒もあるし、浄土宗もあり、浄土真宗もあります。お焼香の仕方、お参りの仕方、全部違います。お参りに行った時に、それぞれの宗派に合わせる必要はありません。自分の家のお参り仕方をすれば良いのです。お焼香を3回するか、2回するか、1回するか、これも決めはありません。

ただ、浄土真宗だけは決まっています。2回お香で体を清めてから合唱をして下さいということになっています。禅宗は、3拝の儀式と言うものがあります。3回の焼香があります。1回焼香をして、身を清める。2回焼香して、今までの罪を全て焼き捨てて、3回目に綺麗になったところで仏様に合掌をします。では、お通夜や葬式の時にはどうなのか、その時の会葬の人数によってある程度決めさせて頂く事もあります。永平寺にお参りに行くと、1回香をたいて、横によけて合掌をして下さいと説明があります。それは、次から次へと人がお参りにくるので、人数によってお参りの仕方を使い分けています。お焼香の仕方については、これでないといけないという形はありません。

合掌をする場合、顔の前に手を合わせると手のひらがピタッとくっつきます。これが合唱の姿です。

私は、中国でお葬式のマナー研修をしています。おじきの仕方、歩き方、色々なことを

教えています。上海の知り合いが、中国全土の葬祭協会の副会長になりました。その方が友達で、中国各地で会議、展示会があるから来てくれと言われていきます。北京、南京など、色んな地域の人たちと友達になり、マナー研修をしてほしいと頼まれます。映画「おくりびと」のお陰で、日本が丁寧で礼儀正しいということで、よく頼まれます。

一番大きな違いは、物を両手で渡して、受け取る側も両手で受け取るという習慣です。おしぼりの渡し方一つでも、日本と中国は違います。中国の人にお仕着せはしません。あなた方が決めて下さいと言います。私たちの会社では、このようにしますが、中国の皆さんがどうするかは、皆さんで決めて下さいと言います。みんなで決めれば、みんなが守ります。私が言っても、みんなは守ることが出来ません。おじぎの仕方、おしぼりの渡し方、歩き方、すべて自分たちで決めてもらっています。

自分の会社でも同じです。人に押し付けられると守れません。ミスは誰でもします。ミスを絶対に隠してもらっては困る。報告して下さい。叱らない。朝礼で名前を言わずに、ミスがあったことを報告します。これをどうしたら次に防げるか皆さんで考えて下さいと言います。オープンにすることで、そのミスは1回で済みます。隠されると何回も同じミスをします。ミスを公にすることで、1回で止めることが出来ます。常に社員には考えてもらっています。そして、みんなで決めて、みんなで守るようにしています。お葬式ですので、ミスがあっては困るのです。

私がもう一つ会社の中でやっていることは、お客さんに聞かれたことは、全部持ってきてくださいとお願いをしています。それは、ある程度の知識のある人は、聞いてくれますが、お葬式を初めて出す人は、何を聞けば良いのかも分かりません。そういう人が圧倒的です。こんな事を聞かれましたと報告を受けると、次から聞かれる前にアドバイスを出来るようにしています。徹底的に、お客さんから聞かれることを報告してもらい、次に活かしています。初めての葬式に不安を抱かせない葬儀社を目指しています

30年前に私が葬儀社を始めた頃、まだ火葬場のチップ、霊柩車のチップがありました。あるお客さんからチップはどうしたら良いのかと聞かれました。人数は？金額は？袋は？

表に何と書けばよいのか？全てお伝えをしました。次の葬儀の時には、何も聞かれなかったのでも、何も言いませんでした。葬儀が終わって集金に行ったら、何も教えてくれないからチップを用意するのを忘れたと叱られました。それから、先に袋を用意して、説明をするようにしました。少しずつ改善をして行きましたら、あそこの葬儀屋は全て教えてくれると言われるようになりました。それまでに5年掛かっています。聞かれて初めて、知って、気が付いて改善をしていきました。色々改善をして、現在、社員が70名、豊川で35%のシェアを占めるようになりました。小さな葬儀になっていく傾向が進んでいます。それぞれのお客さんに対応した会社を目指して、これからも進んでいくつもりです。ご清聴ありがとうございました。

★ガバナー補佐活動報告

11月28日～12月1日に2760地区で「全国ロータリー研究会・ロータリー財団地域セミナー」が開催されました。



11月29日晚餐会が開催され、国際ロータリーのジョン・ジャーム RI 会長と懇談して、記念撮影をしました。



★ニコニコボックス

近藤哲司会員 本日卓話を担当します
加藤哲山会員 事業所創業を祝って頂き

会報担当：中村嘉輝会員・中西弘徳会員